

産官学の連携で懸垂幕が生まれ変わる 渋谷リメイクバッグプロジェクト



渋谷リメイクバッグプロジェクト
メイキングムービー(予告編)
<https://youtu.be/XHfvs70tQHc>

株式会社そごう・西武(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:林 拓二)は、株式会社スーパープランニング(本社:静岡県浜松市、代表取締役:神谷 敬久)、文化服装学院(所在地:東京都渋谷区)、東京デザイン専門学校(所在地:東京都渋谷区)と共同で使用済みの懸垂幕を再利用して作るアートバッグを数量限定で販売いたします。

西武渋谷店の社員が発案した企画を実現させたもので、「廃棄されるものを生まれ変わらせて社会貢献に繋がりたい」という思いに共鳴した渋谷にある企業・団体で協力し、製作されました。「渋谷ならではの」発想とデザインを盛り込んだ本企画は、渋谷区の後援を受け、10月に開催されるファッションウィークに合わせてお披露目されます。販売によって得られた売上金の一部はシブヤ・アロープロジェクト実行委員会への協賛金とし、同委員会が進める渋谷区の帰宅困難者対策にご活用いただきます。

渋谷リメイクバッグプロジェクト概要

■販売開始:10月9日(火)~11月5日(月) ■販売店舗:西武渋谷店 B館1階=特設会場
■製作期間:約3か月間 ■販売価格:3,780円から ■型数:4型 ■販売個数:約150点

共催:株式会社そごう・西武、株式会社スーパープランニング(ROOTOTE)、東京デザイン専門学校、文化服装学院 後援:渋谷区
協力:城西大学、株式会社東京タカラ商会、株式会社プランナー、吉忠マネキン株式会社



■SDGs17の目標に向けた取り組み

本企画に取り組むことで、持続可能な開発目標(SDGs)の目標4、12、17の達成に貢献します。

■渋谷リメイクバッグプロジェクトとは



(株)そごう・西武は、2017年に「CSV」の理解促進のために全従業員を対象としたアイデアコンペを初めて実施。応募総数 約500件の中で、「廃棄される懸垂幕を再利用してバッグを作る」という西武渋谷店の従業員のアイデアが、廃棄物の削減による環境負荷低減、売上金の一部を寄付する社会貢献、企業のイメージアップ効果などの理由から高い評価を得て大賞を受賞。2018年に入り、CSR・CSVを担当する部門と西武渋谷店メンバーで実現に向けて始動し、本企画の趣旨にご賛同いただいた、渋谷区内にある企業・学校を加え、「渋谷リメイクバッグプロジェクト」は発足されました。



株式会社スーパープランニング (ROOTOTE)

生活に欠かすことのできないモノづくりに、デザイン力を加えて提案。デザインをきっかけにして、身近にできるエコを推進している会社には、懸垂幕を再利用してつくるバッグの監修、製作を担当していただきました。同社が展開するトートバッグ専門ブランド ROOTOTE は、ブランド創設の2001年からデザインの拠点を渋谷区代官山に置いており、渋谷とのゆかりが強いブランドです。本企画ではこれまでのトートバッグの制作ノウハウを活かし、学生のデザインを可能な限り反映させたバッグの製作に寄与。学生とのミーティングを重ねるなど、積極的にご参加いただきました。



文化服装学院

1923年に日本で初の服装教育の学校として認可を受け、国内外で活躍するデザイナーをはじめ、流行の最先端で活躍しているクリエイターやファッション業界のさまざまな職種で、業界をリードする卒業生を数多く輩出している日本有数のファッションスクール。同校のバッグデザイン科には、製作するバッグのデザインでご協力いただきました。「渋谷」をテーマに学生ならではの自由な発想で、思い思いのデザインを出していただいた中から、審査の結果選ばれた4点を製品化。授業のカリキュラムに組み込み、学生のみなさまにはモノづくりの現場を最大限に体験していただきました。



東京デザイン専門学校

「企業や団体から実施予定の課題を受ける」、「プロとコラボレーションを図る」といった「産学協同活動」の推進に努めている同校には、共通ロゴやタグのデザイン、販売会場の空間デザインなどにご協力いただきました。本企画に参加した総勢63名の学生が10グループに分かれて「渋谷らしさ」をコンセプトにデザイン案をプレゼン。自分たちがデザインに込めた思いをクライアントに伝え、その結果で会場の装飾が決定されるという、より実戦に近い体験をしていただきました。



■売上金の一部を協賛金としてさらなる社会貢献

シブヤ・アロープロジェクトとは、渋谷区の帰宅困難者対策にて設定している「一時退避場所」の認知向上のため、そこを指し示すアート化した矢印・サインを展開していくプロジェクト。画一的なデザインでは埋もれてしまう渋谷の街において、視認性が高く、記憶に残る矢印・サインを設置しています。今後ますます増加することが予想される訪日外国人観光客も含め、来街者が発災時に混乱なく安心・安全を得られることを目的としています。協賛金はこの活動の資金に充ていただき、廃棄物を再利用するだけでなく、さらなる社会貢献へとつなげていきます。